

令和3年度
府民利用施設のあり方検証結果報告

令和3年10月

京 都 府

目 次

1	はじめに	1
2	検証の基本的な考え方	2
3	検証の結果	4

(資料) 府民利用施設調書

1 はじめに

(府民利用施設)

府民利用施設（公の施設等）は、主に府民福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設のことをいい、京都府では都市公園や公営住宅といった基盤施設をはじめ、文化教育施設、スポーツ・レクリエーション施設、福祉医療施設などを設置している。

(これまでの取組)

府民利用施設の運営については、民間事業者等の能力や経験を活用することにより、府民サービスの向上と効果的かつ効率的な管理運営を目指すことを目的に、平成 18 年度から指定管理者制度を導入（令和 3 年 4 月現在：95 施設）しており、施設利用者の増加や管理運営費の節減など一定の成果が認められるところである。

また、「府民満足最大化プラン」（平成 21 年 3 月策定）では、府民利用施設について、「NPO・民間企業・市町村等を含めた最適な運営主体による管理や協働運営の検討」をはじめ、「府民ニーズ・公的必要性に基づく抜本的見直し」などを行うこととしていたことから、府民満足の最大化に向け資金・施設等の限られた京都府の財産を有効に活用することを目的に、当プランに基づき、平成 23 年度から指定管理者及び施設活用団体（以下「指定管理者等」という。）の選定替え等に併せ、施設のあり方について今日的な視点から検証を行ってきた。

<検証実績>

23 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	37 施設
24 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	7 施設
	直営施設	2 施設
25 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	5 施設
26 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	13 施設
	直営施設	1 施設
27 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	3 施設
	直営施設	2 施設
28 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	16 施設
29 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	8 施設
30 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	4 施設
	直営施設	1 施設
R 元年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	5 施設

(令和 3 年度の取組)

「府民満足最大化プラン」、「府民満足最大化・京都力結集プラン」（平成 26 年 7 月策定）の後継である「行財政改革プラン」（平成 31 年 3 月策定）では、府民利用施設について、「指定管理者制度の活用も含め、利用時間の拡大や休館日の設定など府民サービスの向上を進める中で利用者拡大の取組を進める一方、施設の利用実態や近隣の競合施設の現状等も踏まえ、引き続き今日的な視点により定期的にそのあり方を検証することとしており、社会経済情勢が変化する中、これまで以上に府民満足を高め、多様で質の高い、利用者により魅力のある府民サービスを提供していくため、引き続き、府民利用施設のあり方について今日的な検証を行い、施設運営の改善へと繋げていく必要がある。

このため、令和 3 年度については、以前に検証を実施した施設のうち、令和 4 年度に指定管理者等の選定替えを行う 21 施設について、検証を実施した。

2 検証の基本的な考え方

(1) 検証の概要

今回の検証では、検証対象施設について、近年の施設の利用状況、府の財政負担の状況、施設改修の予定等の施設の現状について、後述する「公共性」、「有効性」及び「効率性」の視点から検証するとともに、府民サービス等改革検討委員会における意見も参考として、施設の課題・問題点等を洗い出し、総合的な判断により「見直すべき施設」、「改善を要する施設」及び「当面継続が妥当な施設」に区分した。

また、施設の運営形態について、「代替性」の視点から、「府の直営とするか」、「指定管理者制度又は普通財産の無償貸付（以下「指定管理者制度等」という。）による運営とするか」について検証を行った。

(2) 検証対象施設

今回の検証については、令和4年度に指定管理者等の選定替えを迎える21施設を対象とした。

①指定管理者制度導入施設

陶板名画の庭
総合社会福祉会館
けいはんなホール
府民の森ひよし
山城総合運動公園
木津川運動公園
府民スポーツ広場
伏見港公園
関西文化学術研究都市記念公園
丹波自然運動公園
洛西浄化センター公園
るり溪少年自然の家

②普通財産無償貸付施設

京都文化博物館
長岡京記念文化会館
中丹文化会館
丹後文化会館
ぶらり嵐山
京都経済センター(京都府区分所有部分)
総合見本市会館
府民総合交流プラザ
丹後王国「食のみやこ」

(3) 検証の視点

今回の検証においては、施設の現状について、「公共性」、「有効性」及び「効率性」の3つの視点から検証を行うとともに、運営形態に関しても「代替性」の視点から検証を行った。

各視点の具体的な内容は次に掲げるとおりである。

1 公共性	①公益性	ア 今日的な視点から、設置目的の意義が低下していないか イ 利用実態が設置目的に即したものとなっているか ウ サービス内容が設置目的に即したものとなっているか
	②必需性	ア 府民の安心・安全の確保等、府民生活を営む上での必要性が高いか イ 府の施策を推進する上での必要性が高いか ウ 法律等により設置が義務付けられているか
2 有効性	①利用度	ア 会議室やホール、競技場など、利用率の状況はどうか イ 入居施設に係る入居率の状況はどうか ウ 過去3年間又は5年間の利用者数の推移はどうか エ 利用者満足の向上に対する取組の状況はどうか
	②互換性	ア 同種・類似の施設が存在するか イ 補助金などの代替施策で対応できるものか
3 効率性	①コスト	ア 利用者1人あたりの府負担コストの状況はどうか イ 経費に占める府費負担割合の状況はどうか
	②将来負担	ア 今後5年以内に大規模改修などの予定はないか
4 代替性	直営とする施設	ア 行政以外にサービスを提供する民間事業者等が存在せず、民間参入の可能性がない施設 イ 施設運営に民間事業者等のノウハウの活用が期待できない施設 ウ 施策を推進するに当たって、府が自ら運営主体として関与しなければならない施設

(4) 検証作業

上記(3)に掲げる検証の視点に基づき、検証対象施設に係る運営状況、利用状況のデータ(書面)による検証に加え、現地調査及び所管部局からの説明の聴取、質疑を実施した上で、府民サービス等改革検討委員会の各委員より意見を聴取した。

各施設の課題・問題点等を洗い出した上で、これらの意見を参考とし、施設のあり方についての検証結果をまとめた。

《参考：府民サービス等改革検討委員会委員名簿》

氏名	職 業 等
石原 俊彦	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授 ※委員長
奥野 美奈子	京都銀行 執行役員 公務・地域連携部長
辻本 尚子	(株)みやこ不動産鑑定所 代表取締役
鳥居 聡	(株)スターナビゲーション・アソシエイツ 代表取締役
モナト久美子	(株)業態開発総合研究所 所長

(五十音順、敬称略)

3 検証の結果

(総括)

今回の検証の結果、対象施設について、次に掲げる区分に分類を行った。

- | | | |
|--------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 見直すべき施設 | (該当なし) | |
| ② 改善を要する施設 | (8 施設) | <ul style="list-style-type: none">・ 陶板名画の庭・ 長岡京記念文化会館・ 中丹文化会館・ 丹後文化会館・ 総合社会福社会館・ 京都経済センター (京都府区分所有部分)・ けいはんなホール・ 府民スポーツ広場 |
| ③ 当面継続が妥当な施設 | (13 施設) | <ul style="list-style-type: none">・ 京都文化博物館・ ぶらり嵐山・ 総合見本市会館・ 府民総合交流プラザ・ 丹後王国「食のみやこ」・ 府民の森ひよし・ 山城総合運動公園・ 木津川運動公園・ 伏見港公園・ 関西文化学術研究都市記念公園・ 丹波自然運動公園・ 洛西浄化センター公園・ るり溪少年自然の家 |

(運営形態に係る検証)

施設の運営形態に関する検証結果については、現行の運営形態を継続することが適当と判断した。

(各施設の検証結果)

各施設の検証結果は、以下のとおりである。

(1) 改善が必要な施設 (8 施設)

●陶板名画の庭

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の設置趣旨と経過、公共性、利用者にとっての有効性を検証し、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けた文化発信事業等において、当施設を幅広く活用できるよう、北山文化環境ゾーンの今後の構想において、他の施設等と連携した文化芸術や北山地域の魅力の発信拠点としての更なる活用など、中長期的な戦略を検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<p>【施設運営等の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の商店街の運営により、効率的で、地域に密着した運営を実施するとともに、隣接する府立植物園や京都学・歴彩館、地元商店街、大学等と連携し、北山通全体の賑わいの創出に貢献できるよう事業を展開。 <p>【具体的施策（利用者(率)拡大の取組など）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた文化発信事業等において、当施設を活用できるよう、植物園にて平成29年5月に開門した「北泉門」の活用、同時期にオープンした歴彩館との連携による北山全体の回遊性を考慮した事業など、今後の北山エリアの整備と併せ事業を展開。 ・安藤忠雄氏の設計による施設を目的とした外国人観光客（特に台湾・中国）が増加しており、更なる増加に向けて、宿泊施設やタクシー等へのチラシ配布、旅行会社向けのホームページの構築等の情報発信や広報の強化等を実施。 ・北山地域の発信拠点としての幅広い活用を図るため、平成30年度からプロフィットシェアリング（自主事業の拡大及び納付金制度）を導入。
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成28年度と比較し、令和元年度の利用者数は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約25%減少 <p>◇若者のSNS発信の効果により、令和2年度2月・3月の来園者数は、令和元年度2月・3月来園者数と比べ約2.4倍増加。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆設置から27年が経過しており、施設の老朽化が進行</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<p>□水垢やクラックなど劣化が始まっており、今後の修繕やメンテナンスコストの試算が必要である。</p> <p>□近年はSNS効果で若者の来場者が増加しているが、今後発生する施設維持管理コストを勘案すれば、このまま継続し続けるのかどうか考え直す段階にきている。</p> <p>□今後進展する北山エリアの整備の中で、本施設を単体で管理するのではなく、総合的な運営管理等を検討されてはどうか。</p>

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎老朽化の進行により、施設改修が必要となることから、設置目的や経過に、今後の費用負担も含めて検証し、今後の北山エリアの整備基本計画も踏まえ、中長期的な施設のあり方を検討すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○当初の設置目的と経過を踏まえながら、老朽化した施設・設備の改修・更新も含め、利用者にとっての有用性を検証していく。</p> <p>○北山エリア整備基本計画を踏まえながら、中長期的なあり方を引き続き検討する。</p>
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●長岡京記念文化会館

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用実態や近隣の類似施設の状況、老朽化の進行により、今後、施設改修が必要となることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設移譲も含めて地元市町と検証を進めること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設に最もふさわしい設置形態を含めた今後の施設のあり方について、長岡京市と意見交換を行い、検証を実施中。 <p><長岡京市との意見交換></p> <p>平成30年度：1回（H30.11.7）</p> <p>令和元年度：1回（R1.10.8）</p> <p>令和2年度：なし（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）</p>
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数、利用料金収入は年々減少</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆築32年が経過しており、建物・設備の老朽化が進行し、設備保守の費用や突発的な修繕費等が増加傾向。</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □今後必要な大規模工事の財源負担について、地元自治体との調整・結論を急ぐ必要があり、負担の軽減に当たっては、公民連携の手法を幅広く検討されたい。 □アフターコロナに向けて、地域を元気にする文化力向上のため、早急にソフト&ハードの充実に向けた改善計画を検討されたい。 □交通の利便性が高い立地から稼働率向上に向けて、地域住民のみならず、鉄道沿線の地域に対しての広告宣伝活動を充実してはどうか。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎老朽化の進行により、施設改修が必要であることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設の運営スキームも含めて地元市町と中長期的なあり方の検証を急ぐこと。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○施設の利用実態や老朽化対策を踏まえ、今後の会館のあり方について、引き続き地元市町と検討する。</p>

●中丹文化会館

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用実態や近隣の類似施設の状況、老朽化の進行により、今後、施設改修が必要となることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設移譲も含めて地元市町と検証を進めること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設に最もふさわしい設置形態を含めた今後の施設のあり方について、綾部市と意見交換を行い、検証を実施中。 <p><綾部市との意見交換></p> <p>平成30年度：1回（H30.11.9）</p> <p>令和元年度：1回（R1.5.16）</p> <p>令和2年度：なし（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）</p>
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数、利用料金収入は年々減少</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆築37年が経過しており、建物・設備の老朽化が進行し、設備保守の費用や突発的な修繕費等が増加傾向。</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □今後必要な大規模工事の財源負担について、地元自治体との調整・結論を急ぐ必要があり、負担の軽減に当たっては、公民連携の手法を幅広く検討されたい。 □周辺自治体の類似施設も、老朽化が進行していることを鑑みれば、周辺自治体の意見も参考に施設のあり方を検討されたい。 □今後のハード投資の費用とアフターコロナの文化戦略構築というソフト費用をあわせて検討し、本施設を核とした地域の文化を育てるための新たなあり方を検討されたい。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎老朽化の進行により、施設改修が必要であることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設の運営スキームも含めて地元市町と中長期的なあり方の検証を急ぐこと。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○施設の利用実態や老朽化対策を踏まえ、今後の会館のあり方について、引き続き地元市町と検討する。</p>

●丹後文化会館

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の設置以降、市町村合併により旧6町が1市に合併されたこと、施設の利用者が市内在住者中心になっていること、老朽化の進行により、今後、施設改修が必要となることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設移譲も含めて地元市町と検証を進めること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設に最もふさわしい設置形態を含めた今後の施設のあり方について、耐震や建物等老朽化の状況から、他の文化会館（中丹、長岡京）より優先して京丹後市と意見交換を行い、検証を実施中。 ・令和3年度京丹後市が設置する京丹後市文化芸術振興審議会（仮称）において施設のあり方等について、議論される予定。 <p><京丹後市との意見交換></p> <p>平成29年度：1回（H30.3.14） 平成30年度：3回（H30.5.17、8.29、10.18） 令和元年度：3回（R1.5.17、8.29、10.18） 令和2年度：3回（R2.8.6、10.8、11.19）</p>
<p>取組の結果</p>	<p>◇利用者数、利用料金収入、利用率は年々減少</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆築40年が経過しており、建物・設備の老朽化が進行しているため、利用者に対する利便性が低下。また、施設の耐震化の必要性が指摘されているため、早急な対応が必要。 ◆施設の利用者は、特定の自治体（京丹後市）の住民中心の利用となっている状況。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □丹後地域の文化振興拠点として、他に代替施設がない一方で、今後必要な大規模工事の財源負担について、地元自治体との調整・結論を急ぐ必要があり、負担の軽減に当たっては、公民連携の手法を幅広く検討されたい。 □地域の文化拠点であり、丹後地域の子育て期の親子の文化とのふれあいの場や学びの場としても大切な役割を担う施設でもあることから、府市での検討に期待する。 □アフターコロナの生活様式の変化を踏まえ、丹後に人を呼び込む手掛かりとなる催しを企画されたい。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎老朽化の進行により、施設改修が必要であることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設の運営スキームも含めて地元市町と中長期的なあり方の検証を急ぐこと。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の利用実態や老朽化対策を踏まえ、今後の会館のあり方について、引き続き地元市町と検討する。

●総合社会福祉会館

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好立地を活かし、近隣の大学等との連携により、利用者数の増加を図るためのさらなる取組を行うこと。 ・施設貸出の時間区分など施設利用者のニーズにあわせた柔軟なサービスを検討し、利用率の改善を図ること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から京都市内の大学や企業への訪問を実施。 ・指定管理者も加入している京都商工会議所の会員企業・団体との交流から施設の利用促進につなげる取組を実施。 ・平成29年度から、以下のサービスを提供 <ul style="list-style-type: none"> ・定員数が合わない場合での机・椅子の無料貸出し ・音楽教室、音楽サークルの利用を大会議室のみではなく、視聴覚室にも拡大（日曜夜間のみ） ・短時間の立食会の使用を承認 ・Wi-fiの導入 ・平成29年度から、こどもまつり（三世代交流イベント）、手話落語ハートフル寄席、高齢女性のためのビューティーセミナーを開催するなど、こどもから高齢者までを対象とした自主事業を開催。
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成30年度以降、貸会議室の利用者数、全体の利用率は減少傾向。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆府支出額は増加傾向（H27：71百万円→H28～R元平均75百万円）。 ◆築26年が経過し、設備等の老朽化が進行し、今後の対応が必要な状況
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □社会福祉活動の場としての必要性は認めるが、立地条件にすぐれた施設であるので、中長期的には現在の場所で引き続き設置を継続するか検討する必要がある。 □大規模修繕の時期が迫っており、今後の改修等の費用負担について、財源確保の手法を検討する必要がある。 □貸会議室について、平日や夜間等の空き時間の営業活動の推進によって、社会福祉と関係がない団体や案件に利活用され、施設の設置目的や意義も改めて周知できるのではないか。 □地下鉄と直結したアクセスの良さと御所近くの環境を考えると、更なる会議室の利用率の向上を期待する。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎アクセスが良い好立地にあることを踏まえ、より幅広い層による会議室の更なる効果的な利活用を図ること。 ◎老朽化の進行により、施設改修が必要になることを踏まえ、将来を見据えた運営を行うこと。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○貸会議室について、近隣の福祉施設や教育施設などのほか、幅広い層の方々が気軽に利用できるよう、一層のPRに取り組む。 ○建設から26年が経過し、施設の老朽化が進んでいるため、修繕の優先度の高い箇所から計画的に修繕を実施していく。

●京都経済センター（京都府区分所有部分）

<p>課題・問題点</p>	<p>◆アクセスが良い京都市中心部にあるが、会議室の利用率は3割弱の状況。</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<p>□会議室の利用について、テナント事業者と一般利用、特に中小零細事業者の間の取扱いに差異があるのは疑問を感じる。中小零細事業者もより借りやすい価格帯等の導入を検討すべきである。また、利用料金や予約等において、府内と府外の利用者での差別化を検討されたい。</p> <p>□会議室の利用料金は他の公的会議室と比して高く、入居団体による閉鎖的な空間となることを危惧する。会議室利用の敷居を低くして、様々な団体が利用できる工夫により、経済センターの役割を知ってもらうのが良い。</p> <p>□曜日ごと、部屋ごとの会議室利用状況を把握の上、会議室利用率向上に向けた施策や利用料金の見直しなど機動的な改善策の実施が必要である。</p> <p>□府の各種施策や関係団体を中心とした連携の強化による施設活用を充実されたい。</p> <p>□本施設による経済効果が、府民にどのように還元されているか可視化できるような有効利用が求められている。</p> <p>□開業したばかりではあるが、維持管理は計画的に行い、今のうちに建替や大規模修繕等に備えた引当金の積立等の手法を考えておくことが必要である。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎府の各種施策や関係団体を中心とした連携の強化による施設の活用を更に進めること。</p> <p>◎利用者の属性や利用区分等による会議室の取扱いの妥当性について、より効果的な利活用に向けた検証を行うこと。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○令和元年度に結成した府内 30 団体からなる京都スタートアップ・エコシステム推進協議会や、京阪神グローバルスタートアップ・エコシステムの形成を担う推進機関にも働きかけ、連携を強化するとともに、オンラインを活用したハイブリッド会議としての利用など新たな利用シーンの広報を強化し、一層効果的な利活用を図る。</p> <p>○無料で利用できるエリアも設置し、学生や個人にも利用頂いているところであるが、利用料金は周辺不動産とのバランスに配慮して設定しつつ、経済情勢も加味しながら、会議室の取扱いの妥当性について検証する。</p>

●けいはんなホール

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西文化学術研究都市が他府県にまたがっている立地を活かし、近隣府県と連携したコンベンションの誘致など、利用者の増加を図ること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 3 月にけいはんなコンベンション誘致推進協議会を設立。 ・他府県主催を含む誘致商談会に参加、学研都市の環境や立地・コンベンション設備について PR（直近参加実績：平成 30 年 3 月、令和元年 12 月、令和 2 年 2 月、令和 3 年 2 月）。 ・研修会プラン等インセンティブプランの設定や京都市内・大阪府・奈良県を含む周辺地域のエクスカージョンの提案等、積極的なセールスを実施。 ・具体的な実績として、平成 28 年 11 月の APECTEL54、平成 29 年 7 月の日 ASEAN 次官級交通政策会議エクスカージョンの開催等。第 22 回日本・スペイン・シンポジウム(外務省主催)の誘致決定※新型コロナウイルス感染症の影響で開催延期中 ・学研都市域内（他府県域を含む）の行政・企業等の参加する会議やイベントの開催と、それらの場で誘致について情報を提供し、共有。 ・学研都市訪問、会議主催者の下見等を含め、上記協議会を中心に視察等を積極的に受け入れる他、オンラインでの PR ツール作成など新型コロナウイルス感染症収束後の利用拡大を見据えた取組に着手。
<p>取組の結果</p>	<p>◇施設全体の利用率は、依然として約20%台と低迷。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆築 28 年が経過しており、建物・設備の老朽化が進行し、設備保守の費用や突発的な修繕費等が増加傾向。 ◆長期間赤字が続いており、赤字幅が拡大傾向。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □毎年多額の赤字が出ていることは問題であり、施設の利用方法を検証の上、赤字の解消に努めるべきである。老朽化も進行する中、指定管理料の範囲内で事業収支を合わせる運営を続けるのではなく、新たな収益の柱を積極的に検討されたい。 □研究者招聘による学会開催や、事業者行事の活用を促進するためには、当エリア進出企業との連携強化に加えて、宿泊施設等の充実も含めた MICE 誘致のための取組への注力が必要である。 □けいはんな地区に代替施設がないことも事実であり、エリアの今後の発展を考えると、ホールのみならず、エリア一帯を組み込んだ広報等の戦略を検討されたい。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎老朽化による施設改修も見据え、設置目的や必需性、今後の費用負担も含めて検証し、関西文化学術研究都市エリアの戦略も踏まえた中長期的な施設のあり方を検討すること。</p>
	<p><今後の対応></p> <p>○これまで注力してきたコンベンションの誘致に引き続き取り組み、3府県にまたがっているという立地の特性も活かして利活用を図る。</p> <p>○中長期的な施設のあり方を検討しつつ、約150の企業や研究機関が集積しており、産官学住で発展してきた文化学術研究都市エリアの強みを活かして、各種交流イベントの開催等を通じ、より一層のホール活性化を図る。</p>

●府民スポーツ広場

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に対応したスポーツ施設ニーズを研究するなど、特に平日利用者の増加を図る取組を検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高低差のあるグラウンドへの移動困難の利用者意見を踏まえ、引き続き、グラウンド近くまでの車両乗入れを可とする取扱いを実施。 ・平成29年度から平日のグラウンド使用料を半額とし利用を促進。 ・空き施設の利用受付や当日の先着順受付を京都府公共施設予約案内システムからの受付に変更し、空き状況の確認と申込みを簡略化し、利用者の利便性を向上。 ・利用者増に向け、年間利用調整において、新たな競技種目として、クリケットの受入を開始。
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響に関わらず、利用者数、利用率は年々減少。 平成28年度と比較し、令和元年度は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 約15%減少 ・利用率 約8%減少
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆立地が不便で、50歳以上の年齢層が約6割以上と、施設の利用者は限定的。</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □利用者の層は限定的で、立地条件に劣り、利用率が50%未満という状況で、府民スポーツの一層の振興を図ることが目的という本施設の位置付けについて、検証が必要ではないか。 □公園としてのセールスポイントが明確でなく、本施設へ来て出来ることが現状は限定的である中、既存の利活用の範囲を拡大するよう、ファミリー層や学生層を惹きつける新たな商品化及び販売戦略の立案が必要である。 □近隣の商業施設や宿泊施設等との連携により、利活用の促進や認知度の向上を図ることが必要である。 □5年前から状況に変化が見られず、府内企業等に使いやすい規制等の見直しにより、民間活力を積極的に導入することに挑戦してほしい。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎施設の利用実態や代替施設の存在を踏まえ、施設の新たな利活用について、検討を行うこと。 ◎新たなターゲット層を見据えた効果的な利活用方法を検討すること。 <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○近隣施設や周辺環境の変化を考慮した新たな取組の実施等により、更なる効果的な利活用を図る。

(2) 当面継続が妥当な施設 (13 施設)

●京都文化博物館

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の利用者拡大に向けた取組を更に進めつつ、特に大きな収益源となっている特別展以外の常設展を工夫するなど、更なる取組の検討を行うこと。 ・フィルムシアターについては、映像資産として価値あるものであることから、関係団体とも協力の上、アーカイブ化の仕組みについて検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3階フロアを広く使い、既存の展示区画にとらわれず、特別展と連動した展示（特別企画展）を実施。 ・メディア芸術、工芸美術、学校資料等、工夫した展示を他機関と連携して行い、入場者数が増加。 ・映像、映画関係団体と協力し、ワークショップ等を通じて、アーカイブ化技術の人材育成を行うとともに、フィルム及び資料のアーカイブ化の取組を実施。 ・アーカイブ化した映像を文化博物館で開催される映画祭で上映することで、その重要性について広く世間に周知。
<p>取組の結果</p>	<p>◇総合展の入館者数は増加傾向 H29：69,220人、H30：74,213人、R元：66,780人 （※令和2年3月は、ほぼ休館のため、実質11箇月間）</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童・学生など若い世代の利用は限定的（40歳未満の利用者：約20%）。 ◆一部施設（和室貸展示室、ろうじ店舗）の利用度が低迷。 ◆H28以降の利用者数は、ピーク時（H26：965千人）から約20%以上減少。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □年齢に関わらず、誰もが京都の文化をはじめとして様々な文化を楽しめる企画や物販・飲食の機能強化等で来場者を増やし、京都観光のゲートウェイとして府民も観光客も気軽に立ち寄れる施設を目指すのはどうか。 □立地や建物の良さから、収益性を更に向上する仕組みに改善できないか。 □文化施設として、専門家の育成もミッションであり、学芸員などの人材育成についても課題意識を持って取り組まれないか。 □一階ろうじ店舗の見直しや別館ホールの更なる活用など一層の利用向上を期待したい。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎博物館として誰もが楽しめる施設を目指し、企画展の工夫や利用率が低いスペースの改善により、幅広い利活用を図り、収益性の向上を図ること。</p>
	<p><今後の対応></p> <p>○常設展・企画展ともに、より分かりやすく魅力的な展示とともに店舗など利用率が下がっているスペースの効果的かつ効率的な利活用について検討する。</p>

●ぶらり嵐山

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外からの観光客が好影響をもたらしていることを踏まえ、増加する観光客向けに売れるような商品づくりなど、自主財源の確保を検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度に専門家による福祉就労製品魅力アップ事業実行委員会を立ち上げ、ぶらり嵐山での観光客向けの商品開発を実施するとともに、外国人等も念頭においた POP の活用による販売を促進。 ・ぶらり嵐山向けの製品開発を継続するとともに、カフェスペースの改修や民間事業所等と連携した店舗前スペースの活用等により集客を促進。
<p>取組の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇利用者数は平成29年度に過去最高を達成。 ◇平成28年度と比較し、平成30年度は、府負担割合が約14%減少
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者への設置目的のより効果的な発信 ◆自主財源の確保による府負担率の軽減
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □高齢者や障害者の社会促進に資する拠点として、施設の目的を分かりやすく発信するとともに、立地を活かして一層アピールする必要がある。 □設置目的に沿った広報を真っ直ぐにした方がよい。設置目的とミスマッチな来訪者が多い状況と察する。例えば「SDGs」を軸としたプロモーションなど、広報のあり方を見直すことで良いマッチングが達成できると考える。 □施設を訪れる人に休憩所としてだけでなく、障害者等の支援施設であることが分かるように、動線や周知方法に工夫を重ねられたい。 □観光名所という魅力ある立地を活かし、収入確保の取組により、府の負担割合を下げることはできないのではないか。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎設置目的をより効果的に達成するため、施設のレイアウトや広報戦略を見直すこと。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○設置目的を達成できるよう、来館者の動線を意識した施設レイアウトの見直しについて検討を進める。 ○外部からの意見及びノウハウを取り入れながら、広報戦略の見直しを進める。

●総合見本市会館

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベンションの質や経済効果向上の観点から、宿泊と連動した施策展開を検討すること。 ・利用者属性の詳細な分析に基づいた、新規顧客確保のための取組が必要。 ・新規顧客確保につながるよう、今後の施設改修にあわせ、ロビーをはじめとして、明るい雰囲気への改修を検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション会社や周辺のホテル等との連携を一層強化し、宿泊を伴う学術会議、研修旅行等を新規開拓する取組を実施。 ・利用状況の推移や利用者アンケート等を継続的に分析し、HPのリニューアルや、メールマガジンの配信による館内貸し会場の空き情報の発信等、利用者が使用しやすいよう様々な取組を実施。 ・館内飲食提供事業者と連携した利用者サービスを提供するとともに、バス運行事業者への施設利用状況の提供により利用者ニーズに応じた運行を実現。 ・広告代理店、企画会社及び装飾会社等との間で、新規利用者の斡旋契約締結を進め、毎年営業活動範囲の拡大を図っているほか、類似施設との情報共有を図り、他エリアへの利用者の流出を防ぐことに注力。 ・館内各所の照明のLED化を順次進めるとともに、利用客からの要望に基づき、館内の複数のトイレをウォシュレット付の洋式トイレへ改修。また、屋外の男性用トイレの新設等順次改修を実施し、リピーターの確保及び新規顧客確保につながる改修を推進。 ・ホール棟2Fトイレ全面改修(平成27年10月24日供用開始) ・屋外トイレ棟男性用トイレ新設等(平成28年3月25日供用開始)
<p>取組の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇平成29年度の収入及び稼働率は、過去20年で最高を達成。 ◇令和元年度の新規利用件数は27件。
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた環境変化への対応と新たな需要の掘り起こし。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □府内最大の展示場・イベント会場として新型コロナウイルス感染症流行前までは良好な稼働状況であった。京阪神・中京圏、府北部からのアクセスも良く、今後も一層の利活用推進を期待する。 □規模と使用目的の特殊性から、多額の改修費用も見込まれるため、詳細な投資計画の立案が望まれる。大規模改修に当たっては事業性を確保できる立地であることから、一部を民間事業者任せ等の検討も含め、柔軟な運営のあり方を検討されたい。 □将来の大規模修繕の費用を踏まえ、府からの支援とともに府税投入以外の方法での資金確保も幅広く検討されたい。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎施設の特徴を生かした営業戦略により、更なる効果的な利活用を図ること。 ◎老朽化による施設改修も見据え、公的な負担の軽減の観点から、中長期的な戦略を検討すること。
	<p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○WITHコロナ・POSTコロナ社会における新たなニーズを把握するとともに、今後のイベントのあり方を検討し、一層効果的な利活用を図る。 ○将来的な大規模修繕に対応するため、戦略的な改修計画を検討する。

●府民総合交流プラザ

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の実績が好調に推移しているものの、利用率に改善の余地があることから、施設利用者ニーズや利用手続のしやすさを踏まえた柔軟なサービスを検討し、利用率の改善を図ること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度から、新規利用者獲得と利用者の利便性の向上を図るため、スポーツホールにインターネット予約を導入。コロナ禍において全体的に利用が減少するなか、新規利用者の増加に繋がっており利用率の維持に貢献。 ・令和2年度から、キャッシュレス決済を導入し、利用者の利便性を向上。 ・近年の利用促進策は、ホームページでの集客強化を中心に行っており、SEO対策、リスティング広告等の対策を積極的に実施。また、ホームページ上での情報量の増加を図りつつ、SNSでの情報発信（Facebook、Instagram、Twitter）にも注力。 ・コロナ禍においては、消毒セットの無料貸出しやテルサホールでのソーシャルディスタンスを確保した専用プランの販売を行い、利用者ニーズに沿った販売促進を強化。
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成28年度の利用者数は、過去最高（約105万人）を達成して以降、令和元年度まで100万人前後で推移。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆築25年が経過しており、建物・設備の老朽化が進行し、設備保守の費用や突発的な修繕費等が増加傾向。 ◆新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた環境変化への対応と新たな需要の掘り起こし。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □本施設は、「女性」・「スポーツ」・「健康」のイメージが定着しているが、これらに加え、「文化」・「学び直し」・「高齢者就労」分野での更なる利活用促進を期待する。 □HPや印刷物等のデザイン性の向上や、本施設を知らない府民への更なるリーチのあり方など広報戦略の見直しを期待する。 □コロナ禍の影響を受けた飲食事業者の撤退を踏まえ、大きなテナント料の期待ではなく、一定の需要に応える仕組み・体制の導入を検討すればどうか。 □アクセスが良い立地であることから、テルサホールへの若者向けイベント等の誘致や会議室の試験会場としての更なる利用など、より一層活用できる可能性がある。 □施設の耐用年数の半分程度を経過し、将来の更新財源のことを考えるタイミングを迎えており、将来の大規模修繕等の費用確保が懸念される。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継 続</p> <p>◎施設の新たな利活用の取組や広報戦略の検討により、より幅広く効果的な利活用を図ること。</p> <p>◎老朽化による施設改修も見据え、公的な負担の軽減の観点から、中長期的な戦略を検討すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○若年層向けイベントの誘致やWEBによる効率的な広報など、新規顧客の獲得や効果的な利活用を図っていく。</p> <p>○築25年が経過していることから、劣化状況の調査や優先順位の検討を踏まえ、効果的かつ効率的に修繕を進める。</p>
-----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●丹後王国「食のみやこ」

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のリニューアル効果が地域経済にどれだけ寄与するのか検証しつつも、リニューアル後の将来性を踏まえた運営を計画すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<p>【地域経済への寄与】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農家の農産物を販売する愛菜館（直売所）の売上に加え、ECサイトでの販売や、府内他地域の直売所・ホテル・デパート等への配送、ふるさと納税の返礼品の出品等を通して、丹後地域の農林水産物を府内外に販売、PR。 ・海の京都・食人材学舎研修を経て、京都丹後いなかツーリズム推進協議会の立ち上げ、民宿の開業など、丹後の「食」を担う人材育成を展開。 <p>【活性化への取組（H28～R2年度）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発。（クラフトビール、ソーセージ等） ・「道一1グランプリ」やGWイベントなど地域活性化の拠点として、様々なイベントの開催。 ・半農半芸プロジェクト、丹後鉄道と連携した地元野菜等の輸送のための貨客混載事業等（全国初）の開始、丹後地域まちづくりに関する連携協定の締結。 ・東京で丹後地域の食を味わえるレストランをオープン。（平成29年8月） ・観光客が多い天橋立駅に新店舗をオープン。（平成29年11月） ・錦市場商店街に丹後地域の食の魅力や観光情報を発信するアンテナショップ「丹後TABLE」をオープン。（令和元年11月） ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上や入場者数が減少し、イベントが一部中止。一方で、ECサイトの充実や、食事の宅配サービス、感染症対策を徹底したイベントの開催等、新たな経営を展開。 ・運営会社及び地元農家等とより一層の連携を図りながら、丹後の食・文化・観光を最大限アピールする運営を志向。
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成27年度のリニューアルの効果（令和元年度末比較）は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後地域農林水産物の売上額の増加（4.5億円→4.7億円） ・雇用人数の増加（56名→82名） ・丹後王国「食のみやこ」協力会会員の増加（129→176）
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆リニューアル後の利用者数（過去最高）から約30%の減少。 ◆農産物等の販売や人材育成の研修などの機会の減少による地域経済への影響。

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□京都府北部の経済を支えるためにも必要な施設であり、地域資源や近隣施設との組合せで観光コースになり得ることから、海の京都の名物施設になることを期待する。</p> <p>□食育・農業体験の推進による子育て世代や小中高生の利用に向けた各種施策展開により、親世代・消費世代の府北部産品消費につなげ、見て・触れて・味わって・体験する記憶を各世代に植え付け、利用者を育てていく必要がある。</p> <p>□面積が広すぎて、施設のセールスポイントがぶれている。「色々あります」ではなく、「丹後王国食のみやこ」でしか体験できない魅力創りに期待する。</p> <p>□アンケート等により、利用者ニーズに合致したサービスが提供できる体制を更に強化し、利用者満足度を高めてほしい。</p> <p>□ホテルも含め、平日の利用稼働策と休日のファミリー層への利用促進の両輪でアプローチする広告宣伝・営業展開を期待する。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎引き続き、京都府北部エリアの地域経済へ寄与するのか検証しながら、将来を見据えた運営を行うこと。</p> <p>◎利用者のニーズを分析し、利用者満足度を意識した施設の魅力づくりに取り組むこと。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○丹後地域の食・文化・観光の拠点として、地域の食材を利用した農産加工品等の開発・販売の促進や、地域と連携した魅力あるイベントの充実等により利用者の確保を図る。</p> <p>○利用者満足度を高めるため、アンケート等により利用者のニーズを把握・分析し、ニーズに合致したサービスを提供することで施設の活性化を図る。</p>

●府民の森ひよし

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合的な施設利用を検討し、利用者の拡大を図る取組を実施すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場やドッグランの利用客が増加しており、ペットとの宿泊や学生ゼミの誘致といった複合的な利用促進のための施設整備を行い、平成30年度にリニューアルオープン。 ・リニューアル後もより幅広い年代層や訪日外国人旅行者等のニーズに対応するための施設整備など、施設利用率の向上や選ばれるキャンプ施設を目指した取組を実施。 ・リニューアル時には、チラシを作成し近隣の教育機関や地元住民への各戸配布などを実施。 <p>【H29実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①電気の使えるキャンプ場10区画及びペットと泊まれるキャンプ場10区画を新設 ②露地キャンプ場10区画及びキャンプ台付き10区画の拡張（テントサイトを6m×6mに拡張） ③キャビンのデッキ部分を拡張し、机を配置 <p>【H29～R2実施】</p> <p>園内の体験の森や散策の森に親しめるよう、京都府内産木材を活用した手すりや階段の改修など散策路を整備</p> <p>【R元実施】</p> <p>森の資料館や体験の森、散策の森の利用者トイレを和式から洋式トイレに改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者減となったが、テント泊等の需要が高まっていることから、感染防止の対策を徹底しつつ、屋外施設という強みを生かして更なる利用者増を目指していく。
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成30年度のリニューアル以降、利用者数、キャンプ場の利用率が増加。</p> <p>平成30年・令和元年度の年間利用者数は約5万7千人であり、目標の5万5千人を達成。</p> <p>リニューアル前の平成29年度と比較し、令和元年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約22%増加 ・キャンプ場の利用率が約12%増加
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆国定公園に指定された森林や、恵まれた自然環境に囲まれ広大な敷地を有する施設の効果的な利活用。 ◆サイトの広さが好評のキャンプ場（利用率は増加）と、大人数で使用するメインキャビン、サブキャビン（利用率は横ばい）の更なる利用者の拡大。

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□施設の利用状況から、あえて研修施設としてのアピールではなく、近隣類似施設に負けない魅力的な「キャンプ場」としての商品価値を更に高めてはどうか。</p> <p>□立地、地形からすると、類似施設を参考とすれば、もっと設置目的を高いレベルで達成できる開発・改善が期待できる。</p> <p>□スプリングスひよしなど魅力ある近隣施設と連携し、エリア一帯での利用向上につながる施策が必要である。</p> <p>□施設利用度を向上するためにもトイレ等施設の整備はしっかり実施されたい。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎施設の魅力の更なる向上や新たな利用者層へのアプローチにより、設置目的である森林への理解を深め、自然と触れ合う場を提供することに関し、より高いレベルでの達成を図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○施設の魅力向上については、広大な森林の中で、散策や林業体験などを楽しむことができるフィールドの整備や、周辺施設と連携した多様なプログラムの提供など、利用者の満足度を高める取組を進める。</p> <p>○新たな利用者層へのアプローチについては、家族や少人数での利用に加え、企業や教育機関での研修など、多様な活用方法をSNSなどを利用して情報発信していく。</p>

●山城総合運動公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テニスコート施設の整備を実施したことによる増加した利用者ニーズを分析し、施設全体の利用率の向上のための取組を実施すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ分析の結果、第2競技場、球技場、野球場、弓道場は、冬期（12月～2月）の平日利用料金を半額とし、利用が少ない冬期の平日利用を増進。 ・夏休み期間中の平日に小中高校生を対象として、第2～第4野球場、野外ステージ、多目的ジムの割引（42%～75%割引）を実施。 ・陸上競技場に夜間照明を設置し、個人利用を促進。 ・空き施設の利用受付や当日の先着順受付を京都府公共施設予約案内システムからの受付に変更し、空き状況の確認と申込みを簡略化。さらに、キャッシュレス決済を導入し、利用者の利便性を向上。 ・冒険の森において、自然木を利用した新たなアスレチックを整備し、WITHコロナの時代に合った利用者が安心して遊べる施設として、令和3年4月11日に開業。
<p>取組の結果</p>	<p>◇令和元年度に過去最高の利用者数を達成。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公園施設全体の老朽化が進行し、今後維持修繕費や基幹施設の改築更新費は増加の見込み。 ◆大規模施設の老朽化及び陳腐化が進み、魅力ある空間利用が不十分で、利用者サービスが低下。 ◆指定管理者による自主事業の拡大を奨励しているが、現在の指定管理期間（5年間）の長さでは、事業実施に消極的。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □現在の公園機能の課題認識に基づき、冬場の利用低下対策や老朽化するプール施設の利活用の準備をしており、利用者増加、公園の魅力向上、自主事業収益の向上等が期待できる。 □高いポテンシャルを有する公園であることを踏まえ、更なる活性化に向けての民間活力の導入を可能にするような体制・仕組みづくりに向けた今後の検討が望まれる。 □公園の再整備等には、今後一定の財源が必要と予想されるが、その多くを公園内で営業を営む事業者が負担していることもあり、これらの事業者のビジネスが円滑に進むように、民間企業の経営の発想を導入して、例えば事業者との契約期間を長期間とするなど検討してはどうか。その場合には、指定管理者への指定管理期間も現行の5年間よりも長期化することが望ましい。 □指定管理期間を一定長期化することにより、本公園の課題改善による運営向上を期待する。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎利用者の満足度の向上のため、指定管理者による自主事業の拡大や民間活力の導入を更に促進するとともに、施設の再整備等の財源確保を図れるよう、指定管理期間の長期化等による仕組みづくりを検討すること。</p>
	<p><今後の対応></p> <p>○利用者の満足度の向上につながるよう、指定管理者による新たな自主事業の拡大や民間活力を導入した新たな取組を強化する。</p> <p>○指定管理期間を10年とし、民間参入や投資を促進する。</p>

●木津川運動公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設との役割を踏まえた特色ある運営に取り組むこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・城陽秋花火大会、熱気球フェスタ、ごちそうフェスタ、パラグライダー体験、紙飛行機イベントなどの特色あるイベントを継続開催。 ・「森守クラブ城陽」をはじめ、学生ボランティアの「プレイリーダー」の他、「城陽五里五里の丘紙ヒコーキクラブ」、「花壇ボランティア」、「公園パートナー」など地元の方々を中心としたネットワークを構築し、1年を通じて多様なイベントを実施。 ・プレイリーダーの育成をとおして、はらっぱ KIDS クラブの開催をはじめ、ごりごりの丘プレイパーク、幼児プレイパークなど、子育て支援事業の開催に注力。 ・園内環境の生物多様性に注目し、継続的な生きもの調査の実施や、カヤネズミ（京都府準絶滅危惧種）の保護活動など、環境保護、環境教育事業にも注力。
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響を除くと利用者数は増加傾向。 平成28年度と比較し、令和元年度は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約30%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆有料施設がなく、自主事業も公益事業が中心であり、収入が少ないため、府の負担割合は100%の状況。 ◆新名神高速道路の開通や周辺の開発のインパクトを生かした新たな賑わいの創出。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □公園として生成されるプロセスに大きな魅力を有しており、今後の全面供用開始を踏まえて、そのプロセスを共有できるような公園づくりを目指すことが期待される。 □設置目的（運動公園）の推進よりも、利用者の現状にあわせ、サービスを向上することが賢明であり、利用者が喜ぶソフトのプログラムをステークホルダー（府民・府内企業等）のノウハウを活用し、協業すればどうか。 □既に地域住民による活動参画も進んでいる状況を踏まえ、より明確に「地域に根ざした地域のための公園」を目指してはどうか。自分たちの公園という意識・機運の盛り上がりは運営上の大きなメリットとなる。 □ネーミングから想像される公園機能とは異なることから、より本公園の魅力を府民に分かりやすく伝えることが重要である。 □新たな駐車場の確保の検討が必要であるとともに、駐車場は有料化を検討すればどうか。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎今後の木津川運動公園全面供用や近隣施設の整備を踏まえ、地域住民や府内企業の参画を得ながら、更なる利用者の満足度を高める仕組みづくりに取り組むこと。 ◎更なる効果的な利活用に向け、駐車場の確保を検討すること。
	<p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○北側区域を含む周辺施設の整備を踏まえ、南側の特色を生かした魅力ある運営に取り組む。 ○北側区域を含めた、木津川運動公園全体としての駐車場の配置・管理運営について検討する。

●伏見港公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館やプール等の主要施設の利用率が高いことから、利用者ニーズを分析し、相撲場の利用率向上のための取組を検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技参加者の裾野を拡大するため、平成 28 年度から相撲フェスティバルで以下のイベントを継続開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・ わんぱく相撲大会（小学生） ・ 現役力士を招いてサイン会や相撲体操 ・ ちゃんこ鍋のふるまい ・ 令和 3 年関西のちびっこ相撲の開催を予定。
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成28年度と比較し、令和元年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数が約17%減少
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公園施設全体の老朽化が進行し、今後維持修繕費や基幹施設の改築更新費は増加の見込み。 ◆近隣住民による施設利用が約 7 割。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □公園の特性を生かして、より多くの府民や観光客に喜ばれる施設へと改善されることが望まれる。 □ハードの魅力のみならず、ソフトの開発で府民が「ここでしか体験、経験できないサービス」等の開発をすることで、府民全体が享受できるサービスの開発を期待したい。 □今年度 4 月に国土交通省「みなとオアシス」に登録されたことから、公共・民間・地域関係者と本施設を含むエリアの役割議論を通じて、本施設の利活用促進につながる施策対応を検討されたい。 □利用者の 7 割以上が伏見区民である現状において、詳細なプロフィール分析を踏まえ、施設の互換性の検証が望まれる。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎本施設の地域における役割を踏まえ、近隣施設と連携した新たなサービス等により、より幅広い府民の利活用を図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○施設の立地を生かし、「みなとオアシス」の取り組みと連携しながら新たなサービスを展開し、幅広く府民に利用してもらえる取組を検討する。</p>

●関西文化学術研究都市記念公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の設置趣旨と立地環境を踏まえ、より多くの府民利用を促進する取組を実施すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント予定を新聞社や地域情報誌等のメディアに送付し、広域広報を継続して実施。 ・桜、ホタル、紅葉等、広域からの集客を見込める内容については、折り込みチラシを作成し、広報を強化。 ・より広範囲への情報発信を目指し、引き続き、HP、Facebook や Twitter などインターネット上の情報発信を充実。
<p>取組の結果</p>	<p>◇令和元年度に過去最高の利用者数を達成。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆府民の認知度の更なる向上。 ◆施設の老朽化に伴う維持修繕費の増加。 ◆指定管理区域外の森林区域におけるナラ枯れによる景観への影響。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □学研都市の附属施設のような位置付けではなく、学研都市のより積極的な魅力発信の中核拠点となれるように、国内外の研究者や留学生にその魅力を発信することが必要である。 □学研都市全体としてコンベンションや会議等を積極的に誘致してきた経過を踏まえ、「学研都市の中の公園」をセールスポイントとし、けいはんなの各施設との協働によるイベントの企画等、府として集客に関わって事業を行う努力が必要である。 □京都の造園の技術や文化等を学ぶ学生たちの研修の場として、本施設を活用していくことも検討してはどうか。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎関西文化学術研究都市という立地を生かした魅力の発信や事業の企画など特色ある施設運営を行い、より幅広い利活用を図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○本公園の特色である、日本庭園や造園技術等の日本文化を国内外の人々へ発信するイベントや、周辺施設と連携した広域的な情報発信活動を強化する。</p>

●丹波自然運動公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地を考慮し、より幅広い利用者の取り込みなど、利用率の向上のための取組を実施すること。 ・指定管理者の運営において、人員構成と人件費などの点から法人のガバナンスの健全性について精査すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都縦貫自動車道京丹波パーキングエリア併設の道の駅「京丹波味夢の里」から見える位置に公園名を表示する大きな看板を設置し、広範囲の人に丹波自然運動公園をPR。 ・京都府総合計画のエリア構想に併せ、南丹広域振興局、森の京都DMO、京丹波町と連携しながらスポーツ&ウェルネス構想に参画してトレーニングセンターの有効活用方法を検討し、新規の利用者獲得を推進。 ・平成31年度決算により人件費等の精査し、人件費+外部委託費の総支出額に占める割合は他公園と比較して低いことを確認済。 (丹波自然運動公園は直営での作業比率が高く、外部への委託が少ない状況)
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成30年度に過去最高と同程度の利用者数を達成するなど、平成29年度からの3年間は約60万人で推移。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公園施設全体の老朽化が進行し、今後維持修繕費や基幹施設の改築更新費は増加の見込み。 ◆大規模施設の老朽化及び陳腐化が進み、魅力ある空間利用が不十分で、利用者サービスが低下。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □京都府中部地域の公園施設として、京都トレーニングセンターを有するなど、地域づくり・健康づくりの観点で有用である。 □京都縦貫道、味夢の里等を通じた利用やサイクルツーリズムの拠点としても利活用につながると考えられるため、誘客につながるイベント誘致等を各種施策と連携して実施されたい。 □地元をターゲットとした企画には限界があると考えられる中、行ったら楽しい公園としてもっと周知されるべきであり、京都市など広域から気軽に遊びに行けるような仕掛けを期待したい。 □よりコンセプトualに宣伝する効果をアップさせたいことから、魅力的に思えるソフトプログラムの開発が必要である。コンセプトにマッチする府内企業との協業など外部の知見が導入できる仕組みにすることが望まれる。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎京都府中部地域の活性化に向け、近隣施設や各種施策と連携し、より広域的な利活用を図ること。 ◎誘客につながるソフトプログラムなど民間活力の導入を検討すること。 <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○広域的な利活用につながるよう、民間活力を導入した新たな取組を強化する。

●洛西浄化センター公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <p>・施設利用者の属性や利用ニーズを分析した上で、的確な広報や利用促進の取組により、施設の利用率の向上を図ること。</p>
<p>対応・改善策実施状況</p>	<p>【属性・利用ニーズ調査】</p> <p>・利用者アンケート実施 「サッカースクール」参加者の保護者アンケート 随時 ※ 修繕箇所の早期発見や改修につながっている。</p> <p>【利用促進策の取組 等】</p> <p>・運動施設の利用促進 「テニススクール」実施（通年） 長岡京市広報 等 「サッカースクール」実施（通年） 長岡京市広報 等 地域スポーツ団体と連携し、大会利用を促進（年間利用調整） （中学体育連盟の乙訓大会（サッカー、テニス）、サッカー山城大会、グラウンドゴルフ大会、中学生ソフトテニス大会 等）</p> <p>・広報活動 Facebook による広報活動</p> <p>・地域との連携・地域貢献活動 幼稚園・保育園の遠足・散歩 受入調整（年間）</p>
<p>取組の結果</p>	<p>◇令和元年度は、過去最高の利用者数を達成</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆供用開始から25年が経過し、設備等の老朽化が進行し、今後の対応が必要な状況</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<p>□汚水処理場の上部空間を有効活用していることを評価する。アクセスが悪い場所にもかかわらず、収益性は良好である。</p> <p>□施設の更なる有効活用の観点から、民間活力の導入により、負担のより一層の軽減が可能ではないか。</p> <p>□設備更新など今後5年以内の改修等による負担が必要であることを考慮して、計画的に事業を継続されたい。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎老朽化による施設改修も見据え、利用者の更なる満足度の向上と公的な負担の軽減の観点から、中長期的な戦略を検討すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○利用者の満足度の向上とともに、持続的・自立的な運営を図るため、老朽化施設の改修計画、民間活力の導入による自主事業の拡大策等を盛り込んだ中長期的な戦略を策定する。</p>

●るり溪少年自然の家

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の統廃合後の利用者動向やニーズを分析し、利用手続きも含め更なる利用者拡大の取組を検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、教育局毎の校園長会議で、利用促進について説明を行うとともに、利用団体毎の希望に応じた対応を心がけ、顧客満足度を上げる努力を行い、予約校が増加。 ・地元の体育施設と連携することができ、大学等の部活動・スポーツ団体の予約が増加。 ・合宿利用の促進のため、合宿用のチラシを作成し、京都府内の大学を中心に継続して配布した結果、大学オリエンテーション合宿の新規予約が増加。 ・閑散期の利用促進のため、予約の空き状況に応じて、自主事業を実施し、団体だけでなく家族連れへの利用機会を提供（地元食材や森林資源の有効活用に関する体験プログラムを実施）。 ・ホームページ上に予約方法や自主事業の告知、キャンセル等が出た空き情報などを掲載するとともに、新たに利用案内の動画を作成するなど情報提供を実施。 ・料金の支払方法にキャッシュレス決済を加え、府民利用の利便性を向上。 ・キッズコーナーを設置し、未就学児も利用するファミリー層の利用を促進。
<p>取組の結果</p>	<p>◇宿泊室の利用率は、依然として40%前後で推移。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆老朽化した建物・設備への計画的な対応。 ◆宿泊室の利用率の更なる改善。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □例えば、兵庫県の丹波少年自然の家では事務組合から一部脱退する等の見直し時期にあり、利用率の向上のためには、近隣府県の小学校に対するPRも有効ではないか。 □小学校限定の施設のような印象を与えているので、関西一円のボーイスカウト等との連携・営業等を含めた広報戦略を検討されたい。 □施設の整備状況や料金設定から、利用者へのアピールポイントが曖昧になっているのではないか。利用者の負担は軽いですが、利用者満足度の吟味が必要である。 □学校や学童・保護者会など、口コミも含め引率する大人の評価が利用選定には重要なポイントとなる。施設の強みを利用者・利用団体に訴求する営業活動とともに、必要な利用料金体系の見直しや施設整備を検討されたい。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p>◎施設のアピールポイントを明確化し、利用者満足度を意識した施設の魅力づくりに取り組むこと。 ◎施設の特徴を生かした営業戦略により、更なる効果的な利活用を図ること。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><今後の対応></p> <p>○るり溪の豊かな自然を活かした体験活動や地元団体等と連携した取組など、利用者ニーズを踏まえた魅力あるプログラムの充実を図る。 ○近隣府県の学校や青少年団体、ファミリー層など幅広い利用層による利活用を図るため、ホームページやSNS等での情報発信による広報活動の強化に努める。</p>
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

